

みのかも 文化財ノート

No. 9

発行 2013(平成25)年3月29日
編集 美濃加茂市市民協働部文化振興課
〒505-0004 岐阜県美濃加茂市蜂屋町上峰屋 3299-1
TEL 0574-28-1110 FAX 0574-28-1104
みのかも文化の森H.P. <http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

2013.3.29

美濃加茂市では、市内に残る貴重な文化財の保存・保護活動ばかりでなく、調査・普及活動をおこなっています。みのかも文化財ノートは、市内の文化財に関連しておこなわれた様々な事業を紹介するものです。

まもる

旧太田脇本陣林家住宅

美濃加茂市太田本町にある林家は、中山道51番目の宿場である太田宿で、18世紀後半頃より脇本陣をつとめていました。

現在も見ることができる家屋などは、享和4(1804)年の家相図と比較しても構造上の改変はなく、大規模商屋の屋敷構えを良く伝えています。

また隣接する隠居家は、室内が数寄屋風の造作で趣があります。

これらは市内唯一の国重要文化財・建造物に指定されています。



上塗り



中塗り・下塗り後



修繕されたうだつの袖壁

平成24年4月の暴風により、主屋西側のうだつの袖壁が破損しました。その部分は中山道に面しており、秋には「おん祭美濃加茂」や「ぎふ清流国体」などのイベントに観光客の来訪も予想されることから、早急に修繕しました。また、質倉・借物倉の雨樋も交換されました。

そして平成25年1月25日には、第59回文化財防火デーとして、初期消火訓練及び立入検査(その他の市指定文化財である太寧寺ほか舎)が実施されるなど、文化財を守り伝えるための事業が続けられています。



第59回文化財防火デー



しらべる・つたえる

高橋余一の「生活絵巻」

明治～昭和期、高橋余一は現在の古井町域に暮らした人々の日常について、彩色された絵と文章で残しました。自らの記憶をたどるばかりでなく、人々への聞き取りもふまえて描かれたことで、当時の具体的な生活の姿を伝えています。

調査の成果は、展覧会の開催をはじめ、「広報みのかも」連載、『紀要 第12集(2013)』などで紹介されています。



養蚕 「高橋余一画生活絵巻」
(市有形文化財・歴史資料)



ひろめる 木造如来坐像

仏像は漆箔、一木造で結跏趺坐をしています(市有形文化財・彫刻)。伏し目がちな眼、突き出し気味の顎、薄い胸などに定朝様式がうかがえる一方、面長な顔は鎌倉彫刻の形式を示しています。市内最古級(12世紀頃の制作)と考えられ、貴重なものです。

平成21年度に指定され、翌年には、修復作業が行われました。今年度は文化財標柱を設置しました。

まもる オオサンショウウオ

6月14日、国天然記念物であるオオサンショウウオが山之上浄水場排水池で発見されました。全長約30センチメートルの個体でした。

本来は飛騨川で生息していたものが、取水口より流されてきたことによると考えられたため、計測等の調査を行った後、安全な場所へ放流しました。



まもる・しらべる

埋蔵文化財の保護

美濃加茂市開発事業指導要綱に基づく1,000㎡以上の開発計画が25件、砂利及び岩石採取協議会で協議対象となったものが8件、その他埋蔵文化財包蔵地の照会が152件ありました。そのうち、試掘確認あるいは工事立会について意見及び対応したものが25件あり、埋蔵文化財保護に関する指導などを行いました。

また、岐阜県生物工学研究所跡地(蜂屋町上蜂屋)については、遺跡が存在する可能性があるため、区域内の分布調査や試掘確認調査による把握を進め、今後の利用計画との調整を行っています。



岐阜県生物工学研究所跡地(一部)における試掘確認調査